

フットサルのゴールに関する研究 ～ファー詰めに着目して～

伊東 翔太(競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)
指導教員 望月 聡

キーワード:ファー詰め, ゴールパターン, 決定率

1. 緒言

フットサルは言うまでもなく、ゴールの数で勝敗が決まるスポーツである。どれだけボールを支配しても、良い守りができていても最終的にモノを言うのは決めたか決めないかである。得点を奪う為にはできるだけ相手ゴール付近でプレーすることが重要である。フットサルはサッカーと違い、1対1はなかなかシュートが決まらない。そこで、1対0を作ること、いわゆるファー詰りを増やして決定率を高める工夫が必要である。フットサルにはオフサイドがない為、相手ゴール付近でボールを受けることができるのでファー詰りをすることができるのである。そこで本研究は、ファー詰りに着目してファー詰りが試合におよぼす影響について研究し、本学フットサル部にフィードバックすることを目的とする。

2. 研究方法

Fリーグシュライカー大阪の2012, 2013年シーズン全27節と本学フットサル部9試合をビデオ分析する。

調査項目は以下の通りである。

- 1).全ゴールを調べて、ファー詰りの割合を調べる。
- 2).両チームのファー詰め数と決定率を出す。
- 3).対戦相手のレベルによってファー詰め数が増えるのか調査する。
- 4).シュライカー大阪と本学フットサル部の分析結果を比較する。

3. 結果と考察

シュライカー大阪の結果は、勝利したチームのファー詰め数を見てみると相手よりもファー詰め数が多い割合が32%、相手とファー詰め数が同じ割合が32%、相手よりもファー詰め数が少ない割合が36%だった。ファー詰め決定率を見てみると、勝利したチームのファー詰め決定率が相手より高い割合が55%、決定率が相手と同じ割合が36%、相手より少ない割合が9%であった。本学フットサル部の結果は、勝利したチームのファー詰め数を見てみると相手よりもファー詰め数が多い割合が45%、相手とファー詰め数が同じ割合が22%、相手よりもファー詰め数が少ない割合が33%であった。ファー詰め決定率を見てみると、勝利したチームのファー詰め決定率が相手よりも高い割合が56%、相手とファー詰め決定率が同じ割合が33%、相手よりも少ない割合が11%であった。

4. まとめ

シュライカー大阪、本学フットサル部共に、ファー詰め数では勝利したチームと敗北したチームでは差が見られなかった。ファー詰め決定率は、勝利したチームと敗北したチームを比べてみると、勝利したチームの方が約5倍高いことがわかった。このことから、ファー詰りは本数では決定率が重要である。